様式1

令和6年度　学校評価表

学校教育目標	確かな力で未来を拓く教育の創造

a ミッション	地域の教育力を生かした 御調プライドを醸成する教育の推進	aビジョン 夢ひろがる地域の学校 ・明日も行きたい学校　・会いたい友達や先生　・受けたい授業

尾道市立御調西小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月末 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の育成	未来につながる基礎的な学力の育成	基礎学力の定着と表現力の向上	○授業改善による学力の定着 ・めあてとまとめが一体化した授業の実施	○国・算の単元末平均点 低学年９０点以上 中学年８５点以上 高学年８０点以上	90点 85点 80点	国 92点 88点 89点 算 96点 87点 85点		国 102% 104% 111% 算 107% 102% 106%	国 A A A 算 A A A	○国語・算数の単元末テスト平均点は、低中高それぞれ達成度が全て100%以上あり、継続して学力を概ね定着させることはできたと捉えている。日頃の授業やいきいきタイムを使って継続的に復習を行ってきた。学力テスト等の課題を基に授業改善を行い、日頃の授業からどう改善していけばよいのか明確にし、意識統一を図り、さらなる学力の定着を目指したい。	7			・全国学テの分析もきちんとできており、組織としてベクトルを揃えた教育活動が展開されていると思う。NIE活動も取り入れ、活字離れを防ぐ取組も効果的である。学年によって授業力に差が出ないよう研鑽に努めてほしい。 ・日頃の授業づくり、教職員の意識統一で子ども達に良い結果が出ていると思います。	日頃の授業を充実させることやいきいきタイムを活用することを通して、児童の学力定着・向上に引き続き取り組んでいく。特に、日頃の授業では、全国学力・学習状況調査の分析を基に本校で取り組むこと、小中連携協議会から中学校区で取り組むことを、指導者が日常的に意識することで、その効果を高めてくようにする。また、ＮＩＥに関する取組も引き続き充実させることにより、児童の学力定着・向上へとつなげていきたいと考える。
			○NIE活動を取り入れた授業づくりによる表現力の向上	○児童アンケートで「図書や新聞を使う授業は楽しい（3～6年ためになる）」と答える児童の割合８０％	80%	97%		121%	A	○図書や新聞に関わる児童アンケートを実施し、肯定的評価平均が97%となり、達成度が１００%を上回った。授業では、新聞を活用した情報収集や学習したことを新聞にまとめる活動を行った。また、NIEタイムを週一回継続的に行い、学年に応じて新聞を使った遊びや新聞ワークシート、新聞記事に対して感想文を書く活動などを行った。２学期以降も新聞を活用し、社会事象に目を向けながら、児童が「楽しい・ためになる」と思える取組を行っていきたい。					
豊かな心と体の育成	人とのつながり、関わりを大切にし、健康的に生きていく力の育成	自己有用感の向上	○学級や学校内で役割を持たせ、 協働して活動する機会の設定 ・1～3年　係活動等 ・4年　委員会活動等 ・5～6年　委員会クラブ活動、縦割り活動、 学校行事等 ○「ありがとうの木」で相互評価を見える化する	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の割合 肯定的評価90%以上	90%	97%		108%	A	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の肯定的評価は、達成度が１００%を上回り、多くの児童が自己有用感をもつことができた。昨年度から引き続き高い状態が維持できている。一方で、そうした実感をもちにくい児童もいる。全児童が自己有用感を得られるよう、支持的風土のある学級経営を素地とし、特に自己有用感を感じていない児童への評価・価値づけを意識しながら各取組を進めていく。	7			・自己有用感を高めるために「ありがとうの木」での見える化等児童が実感できる取組が素晴らしい。高学年が手本となって行動をし、低中学年がそれを見習って向上していくスパイラルを継続していってほしい。 ・自己有用感をもたせるために学年で自分の活動の場を設定しているのはよい。 ・目標をはっきりさせ達成したかどうか子ども自身がよくわかるようにした取組はよい。 ・一人一人が認められて有用感を感じながら学校生活を送ることで学習への意欲も高まっていることを感じました。	児童の自己有用感を高めるためには、取組を積み重ねていくことが大事であると考える。「ありがとうの木」の取組はその一つであるため、２学期からも継続して取組を進める。さらに、支持的風土のある学級経営を行いながら、「ありがとう」を実感できるようにしていく。一方で、１学期の「ありがとうの木」も校内（音楽室前）に継続して掲示すること等により、取組が形骸化しないように留意する。 目標を可視化させ、達成したかどうか子ども自身がわかるようにこれからも取り組み、自己有用感、学習意欲を高めていく。目標を達成できるようにするために、時折取り組むのではなく、日々の授業で継続的に取り組む。
		基礎的な運動体力・運動技能の定着	○体育の授業を中心に、単元に応じて個人の目標値と自分の成長を可視化できる機会を設定	○「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」と答える児童の割合 肯定的評価９０％以上	90%	96%		106%	A	○運動会と水泳授業において、「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」という児童の肯定的評価は、達成度が１００%を上回り、多くの児童が達成感を得ることができた。運動会についてはペア学年による体育の授業や全校での練習で、子ども達の課題を把握し解決に向けて指導したこと、水泳授業においては安全面に留意しながら、泳ぐ時間を長くし運動量を確保したことがアンケート結果につながったと考える。２・３学期も、児童が達成感を得られるように工夫していく。					
地域と共に歩む学校	ふるさと御調に愛着を持ち、未来の担い手となる児童の育成	地域への愛着を持ち、地域と主体的にかかわる児童の育成	○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動の実施 ・年間を通じ、地域の人材を活用した学習・行事を実施	○地域の人材を活用した学習・行事を計画回数以上実施 （学期末） ○「地域が好き」と答える児童の割合　９５%以上 （学期末）	100% 95%	25/14 100%		179% 111%	A A	○４月当初に計画していた地域の人材を活用した学習・行事を超える回数（２５/１４）を行うことができ、達成度も１７９%であった。２・３学期も高い教育効果を生むことができるよう、カリキュラム・マネジメントを行い、地域の人材を生かした学習ができるようにしていく。 ○地域の方々の協力を得て、生活科や総合的な学習の時間、行事を充実させることができた。その結果、児童アンケートでは、１００%の児童が「地域が好き」と回答し、目標値を上回った。２・３学期も継続して地域の方々の協力を仰ぎ、地域のよさを生かす教育活動を推進する。	6		1	・地域に積極的に出向き、地域人材を進んで活用していること、さらに教職員それぞれが積極的に地域とつながろうとしていることが結果となってあらわれている。継続していってほしい。 ・地域の方の協力を本当に使われており地域とよい交流ができていますね。このままで！ ・地域に出向き、地域人材を活用し、子ども達が地域を知ることで地域を好きになる。大きな成果が出ていると思います。 ・地域との連携がしっかりできていて素晴らしいと思います。 ・「地域が好き」と１００%の児童が回答しているところに活動の充実ぶりが感じられます。 ・児童が「地域を好き」と回答する理由が学校での地域と関わる取組によるものと１００%言えないのではないか。親や地域の人達と日常の中でのかかわりも考えられるし、取り巻く自然や歴史・文化との関係性や親和性も大きいと考える。「地域が好き」と回答する背景や要因をいくつか選択肢を設定して問うことも必要ではないか。	２学期以降も、地域へ進んで出向き、地域の人材を活用することにより、本校の教育活動を充実させることで子ども達の成長につなげていくことができるようにする。その際には、地域の方々との連携を計画的に行うことで、バランスよく学習が進んでいくようにする。そうして地域に関連させて学習を進めることによって、日常的な地域との交流を盛んにするとともに、児童を取り巻く自然や歴史・文化との関係性や親和性を高めていくようにする。

【取組評価】　A：１００≦（目標達成）　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００　C：６０≦（もう少し）＜８０　D：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。